

うみっこ通信



滋賀県立
琵琶湖博物館

LAKE BIWA MUSEUM



博物館に学校の先生がいるの？

教えてください



とだ たかし
戸田 孝 学芸員



博物館学ってなんですか？



体験学習プログラムで使用する「よし」

博物館と博物館学

2014.10
No.12

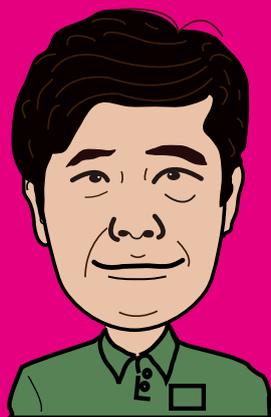
琵琶湖博物館は「湖と人間」について研究し、みなさんといっしょに学び考えていく博物館です。そのほかに、そのような博物館の活動が、どのようにあるべきかということも研究しています（「博物館学」といいます）。

戸田学芸員は、その中でも、学校の先生たちと良い関係をきずき、学校の授業に博物館をうまく使ってもらうためにはどうすれば良いかを探るために、いろいろなことを調べてきました。今回、今までの研究調査や体験学習を通してわかってきたことを紹介します。

また、11月24日（月）まで開催中の企画展示「魚米之郷 - 太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし -」を紹介します。

目次

- 1 今回の特集
- 2 博物館学ってどんな学問？
- 3 学校の先生と博物館との関係
- 4 うみっこトピックス「魚米之郷 - 太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし -」



博物館を
研究します！

【研究紹介】 博物館学ってどんな 学問？



【写真1】琵琶湖博物館の概要説明

博物館学とは？

ひとくちに博物館学といっても、いろいろな内容があります。博物館学というのは「博物館はどのようにあるべきか」を探る学問なので、博物館のいろいろな仕事の各々に対して博物館学で考えなければならないからです。

具体的には？

- ・資料をどのようにして集めるのか、資料をどのように整理保管するのか。
- ・資料をどのように展示するのか、展示をどのように運営するのか。
- ・博物館利用者とどのような関係をきずけばよいのか。
- ・博物館どうしや他の施設とどのように協力関係を作ればよいのか。などが博物館学で研究する内容です。



【写真2】体験学習プログラム
「プランクトン観察」

どんな研究をしているの？

博物館が他の博物館や他の施設と、どのように協力していけばよいかを調べています。たとえば、滋賀県内の博物館が力を合わせて仕事をしていくためには、どんなふうに進めればよいかを調べたこともあります。そして最近では、博物館と学校がうまく協力していくためには、どうすればよいかということ、博物館で働いている先生の仕事に注目して調べています。



【写真3】体験学習プログラム
「富栄養化実験」

博物館に学校の先生がいるの？

たとえば、琵琶湖博物館では約30人の学芸員といっしょに2人の先生が働いています。



【写真5】体験学習プログラム
「プランクトンの調査」



学校の先生と博物館の関係

学校の先生が博物館に
いるって知ってた？何
をしているんだろ？



【写真5】 縄体験学習プログラム
「外来魚の解剖」



【写真6】 体験学習プログラム
「外来魚の解剖」



【写真7】 体験学習プログラム
「よし笛作り」



【写真8】 体験学習プログラム
「よし笛作り」

◎ 他の博物館にも学校の先生はいるの？

その様子をきちんと調べた人は今までいなかったもので、全国の博物館や教育委員会にアンケート調査を行って調べてみました。その結果、都道府県立博物館の半分近くに学校の先生がいることがわかりました。多くの場合、その先生たちは3～5年くらいで学校へ戻ることもわかりました。

◎ 博物館での先生のお仕事は？

全国各地にいる博物館にいる先生たちは、学校行事で来館する団体などが博物館を利用したいという時に、前もって打ち合わせを行ったり、当日の学習活動を進行したりする仕事をする事が多いようです。博物館で使う教材は学芸員たちが研究活動を進める中で作り上げてきたものが中心ですが、博物館にいる先生たちと相談し、教材を作り上げていきます。博物館にいる先生たちは、学校の教材として使えるようにするにはどうすれば良いかを学芸員に伝える役割を果していることがわかってきました。

◎ 学校に戻った先生はどうしているの？

たとえば琵琶湖博物館の先生は、だいたい3年くらい博物館で仕事をした後、学校へ戻ります。この先生たちが、そのあと学校でどうしているか調べてみました。博物館で実際に仕事をしてきた先生たちですから、学校の授業で博物館がどのように利用できるか、実感としてよく知っています。琵琶湖博物館だけでなく、他の博物館の使い方もよくわかります。ですから、そういう先生たちは自分が教えている生徒児童たちも博物館へ連れてきますし、周囲の先生たちの相談にも乗って、その先生たちが博物館をうまく利用する手助けをしたりもしていました。

◎ 他の先生たちも博物館へ行くのかな？

琵琶湖博物館から学校へ戻った先生の中には、近くの学校の先生から、修学旅行の行先でどんな博物館が利用できるかを相談された先生もありました。校長や教頭になった先生の中には、若い先生たちを積極的に博物館などへ研修に行かせて授業にうまく利用する方法を学んでくるよう指導するようになった人もいます。このようにして、まわりの先生たちも博物館をよく利用するようになることもあるようです。

うみっこ トピックス

企画展示担当

あいこ
愛湖ちゃんとお待ちしています！

ぎよまいのさと
企画展示『魚米之郷 —太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし—』

今、琵琶湖博物館の1階にある企画展示室では、琵琶湖を中国の湖と比べながら紹介する特別な展示『魚米之郷』をひらいています。

「魚米之郷」とは、「魚とお米がたくさんとれる場所」という意味で、中国を代表する大きな湖である太湖と洞庭湖のまわりのことをいいます。また、琵琶湖でも漁がさかんで、滋賀県はお米の産地でもあるため、ときどき「魚米の郷」と呼ばれます。

お米が世界で最初に育てられた場所は中国です。その中国で一番長い川・長江（下流の別名：揚子江）とつながった太湖と洞庭湖のまわりが、今も米どころとして有名です。これらの湖では、コイやフナの仲間、エビやカニをとる漁もさかんです。また、湖のまわりに住む人びとが、川・水路・運河・井戸の水をどのように利用してきたのかということも、琵琶湖のまわりの人びとの知恵とともに展示しています。

そして、同じアジアの湖の水とのつきあい方などを比べながら、よりよい水の未来へのヒントを探そうとしています。



企画展示室の様子

展示室入り口には、マスコットキャラクターである「愛湖」ちゃんが皆さんを待っています。愛湖ちゃんは、湖の大好きな素敵な着物を着た女の子で、髪には太湖・洞庭湖・琵琶湖の形とした飾りをつけています。

展示室では、たくさんの湖のきれいな風景写真、貴重な中国の湖を描いた風景画や今も船に住む人々の生活のようすなどを展示しています。また、お絵かきコーナーやチャイナドレスを着たり、愛湖ちゃんと一緒に写真を撮っていただける場所もありますよ！愛湖ちゃんが待っていますので、ぜひみなさん遊びに来てください。11月24日（月）までです。



愛湖ちゃんといっしょに、民族衣装を着てみよう！



ただいま好評開催中！

期間：2014年
7月19日（土）～
11月24日（月）

企画展示室で待っています。
ぜひ会いに来て下さいね！

中国の太湖と洞庭湖、そして琵琶湖の水辺に暮らす人々の暮らしを「漁業」「農業」「水環境」のテーマから紹介します。

マスコットキャラクター「愛湖ちゃん」



自分が魚になったつもりで、タツベに入ってみよう！